



お茶の水女子大学

キャンパス情報: 文京区茗荷谷

学部情報: 文教育／理／生活科学部

(3 学部 13 学科)

…みなさんも知っての通り、**日本全体で大学入試制度が大きく変わろうとしています**。いわゆる『**2020 年問題**』です。単純に言うと今まで問われていた知識中心の学力から、別の観点の学力を元に志願者を選抜しようというものです(勿論、知識があることが前提)。このような変革に対応するため、各大学が新しい入試選抜方式を導入しつつあります。今回は、ご存知、(私立も含めて)日本にある女子大学の最高峰、お茶の水女子大学が 2020 年問題に対応すべく導入する新入試方式を紹介します。

<新フポルト入試> (HP からの抜粋)

お茶の水女子大学では今年度から、『**新フポルト入試**』という新型 AO 入試を始めます。物事を深く考究する力、自ら課題を見つけ、データを集めて論理を構築する力、そうした豊かなポテンシャルをもった人を選抜するためです。**知識の量ではなく、知識をいかに活用できるかを問う入試**です。そしてその一次選考の一環をなすのが『**プレゼミナール**』です。このプレゼミナールでは、専門研究分野からセミナーを開講し、受験者はレポートを作成することになります。出願時に提出する志望理由書／活動報告書／外国語試験成績等を総合的に評価して第 1 次選考は行われます。また第 2 次選考は以下の通り。

(A) 文系学科「図書館入試」

1 日目は附属図書館で図書などを参照しつつ課題レポートを作成。2 日目は、グループ討論と面接。

(B) 理系学科「実験室入試」

(1) 理学部生物学科は自主研究ポスター発表(自主研究ポスター発表を中心に、これまでの高校での取り組みを評価する試験)。

(2) 生活科学部人間／環境科学科は自主研究ポスター発表／質疑応答。自主研究テーマは自由、ポスターは、縦 180cm×横 90cm とし、第 2 次選考の当日に持参。

(3) 生活科学部食物栄養学科は自主研究ポスター発表／質疑応答と個人面接。自主研究テーマは自由、ポスターは、縦 180cm×横 90cm とし、第 2 次選考の当日に持参。

(4) 上記以外の理系学科は思考力や探求力などの能力をみる専門性のある試験課題。

例) 実験、実験演示や実験データをもとに考察／黒板などを使って考え方を説明。

※**合格者は所属学科が指定する大学入試センター試験の教科／科目を必ず受験**すること。併せて、同センター試験出願の際、「試験成績の本人開示」(請求)の手続きをすること。

今年度のプレゼминаールのセミナーの内容は以下の通り。

(文系)

『わたしたちはなぜそのように考えているのか』『日本とイスラーム世界：交流と比較の視点から』
『論理的な文章とはどのようなものか』『被害の記憶と加害の記憶：錯綜するナショナル・メモリー』
『どうしたら子どもは支援されるのか：子どもを支える臨床心理学』

(理系)

『生活工学への誘い』『食行動の変容～教育的アプローチと環境的アプローチ～』
『余弦定理と非ユークリッド幾何学』『簡単な法則の不思議な運動』『ナノスケールの物理』
『分子から見た香り』『食品アオサ・アオリ類の DNA 鑑定』『生物数千万年の歴史解析』
『コンピュータグラフィックスを体験する』

今回『図書館情報検索演習』に見学参加することができました。これは、上記文系の図書館入試を体験するもので、主に高等学校 2 年生が参加するものでした。参加者は 40 名。中には私服の生徒に混じって白百合や雙葉といった学校の制服もチラホラ見かけられました。図書館入試は、膨大な情報の中から宝探しをするのではなく、手に入る材料をいかに自分で料理していくか、自分で解を組み立てていくかが問われるものです。今回は『風刺はどこまで許されるのか』という題材でした。所要時間は 2 時間です、A4 の用紙 2 枚を使って考えをまとめていきます。参加生徒たちの様子を見ていて気がついたことを下にまとめます。

- ・PC が使えて当たり前(参加者はほぼ全員がブライドタッチかそれに近い状態でした)。
- ・検索の仕方で詰まった時には補助の大学院生が手助けしてくれる仕組みを採用。
- ・見学していても 2 時間はあっという間、受験者ならばきっとそれ以上に短く感じたはず！
- ・用紙 2 枚を使い切ってまとめたのは全体の 10%程度。1 枚目で止まってしまっていた生徒も多かった(中には結局 1 枚目の数行しか書けなかった者も)。

上記内容を、みなさんはどうお感じになりましたか。この入試は、まさに新しい学力を問うもので何やら難しげに見えるかもしれませんが、臆することはありません。各クラスで取り組んでいるコースの特色を活かした総合学習への取り組み、SSH の発表、アジア研究、スポーツサイエンスの探究活動 etc.これらは全てこういった新しい入試に向けて、大きな武器となることでしょう。

学園祭も無事終了し、これから学習に集中する時期となります。1 年生は文理選択、志望分野の絞込みを、2 年生は受験手段も考えていく時期となります。これまでの卒業生を振り返ると、『何となく楽そうだから AO 入試』『一般受験をする自信がないから AO 入試』という人が非常に多かった気がします。しかし、入試制度全体が変革されるこれからは、攻めの姿勢が求められます。みなさんの強みを活かして、今から自分の進路に向けての取り組みを始めていきましょう。

★高等学校 2 年生 12 月には第 1 志望校をどの入試形態で受験するのか決定していきます。

＜一般入試＞地歴／理科の状況と 3 科(5 科)のバランスの把握

＜AO 入試＞どんな力が求められ、どんな選考方法を採用しているのか把握

＜推薦入試＞志望分野＋英語の基礎力の充実(学科試験導入校が増えています)

と、それぞれ求められるものが異なります。自分の進路を見据え、今から行動を開始しましょう！